

兵庫県立篠山鳳鳴高等学校 令和4年度学校評価

達成度を4段階(1できなかった 2あまりできなかった 3まあまあできた 4よくできた)で評価

1 学校経営の重点における自己評価

番号	領域	評価内容	対象となる具体的取組	平均	昨年度比
1	学校経営の重点	個に応じた知識理解の伸長と自尊心の涵養	① 「高大接続改革推進事業」「インスパイア・ハイスクール事業」「ひょうご学力向上サポート事業」を活用し、生徒自らが積極的に言語活動や探究活動等を通じて学力向上を図るための教育環境づくりを進める。	2.9	-0.3
			② ひとり一人の能力・適正に応じた教育および学習指導を行うことにより、生徒が喜びと期待を持って登校する学校づくりを進める。	2.8	-0.1
			③ キャンパスカウンセラーや関係機関等との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上等を図ることにより、生徒の悩みを受け止める教育相談体制を充実する。	4	0.6
2	学校経営の重点	保護者から信頼される学校づくり	① ホームページの充実、学校だより、学年通信、保護者懇談会、さくら連絡網などを通じて、保護者や市民等に対して学校行事や学年の取り組み、部活動などの計画や成果を積極的に発信する。	3.1	-0.3
			② 家庭訪問や面談等を通じて学年・学級担任等と保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒ひとり一人の成長を支援する。	3.1	-0.2
			③ 総合的な探究の時間や高校生就業体験事業、科目「体験活動」等を通じて、職業研究、職業体験を積極的に進めることにより、生徒の健全な職業観や勤労観を培うとともに、進路希望の自己実現を支援する。	2.9	-0.1
3	学校経営の重点	地域に信頼される学校づくり	① 市・市教育委員会、幼稚園・保育所、小・中学校等と連携し、地域で生まれ地域で育つ子どもたちの最終の公立学校（公的後期中等教育機関）としての責任を果たす学校づくりを進める。	2.9	0.2
			② 学校教育全体を通じて、地域の伝統文化・行事の継承や生涯学習スポーツ、PTAや地域住民と連携したふるさと貢献・活性化活動、国際交流活動等に積極的に参加することにより、ふるさとを愛し、地域社会の一員として積極的に生きる人材を育成する。	3	0.1
			③ 学校評価とその公開を積極的に進めることにより、本校教育の可視化を図るとともに、地域住民の期待や要望等を教育活動に活かすことに努める。	2.9	0.0
4	学校経営の重点	教職員が自信を持って働ける学校づくり	① 教材研究・授業研究や各種研修による授業の充実を図るため、ノー残業デー、ノー会議デー、ノー部活デーを設定し、教職員ひとり一人の資質向上と心身の健康増進に努める。	2.4	-0.2
			② シラバス（3年間を見通した教育計画）を作成し、教職員の共通理解と教育内容の平準化を図るとともに、シラバスを生徒・保護者等へ配布、授業の公開等により、本校教育の信頼づくりに努める。	2.9	-0.1
			③ 教職員が互いを認め合い、気軽に相談できる職場づくりに努めることにより、教職員が自信と生き甲斐を持って働ける学校づくりを進める。	2.9	-0.3

2 教育活動各項目における自己評価

番号	領域	重点事項	評価項目	平均	昨年度比
5	学校運営	開かれた学校づくり	① 家庭や地域への情報発信	3.2	0.1
			② 地域、家庭、関係機関との連携	3	0.1
			③ 外部評価を活用した学校運営の推進	2.8	0.2
6	学校運営	生徒指導	① 生徒指導方針の確立と指導体制の推進	2.8	0.2
			② 生徒の内面の理解を図る指導の工夫	2.8	0.0
			③ 学年間の連携及び家庭との連携	3	0.2
7	学校運営	進路指導	① 進路指導体制の充実	2.9	-0.1
			② 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	2.8	-0.1
			③ 生徒の自主的な進路選択能力の育成	2.8	0.0
8	学校運営	教職員の資質向上	① 実践的指導力の育成	2.8	-0.2
			② 計画性を持ったICTの活用等研修の充実	2.7	-0.4
			③ 授業評価等を利用しての、授業改善への取り組み	3	0.1
9	学校運営	危機管理体制の整備	① 実効性のある学校防災マニュアル策定	2.8	0.3
			② 家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	2.7	0.1
10	学校運営	勤務時間の適性化	① 事務の見直しと勤務の縮減	2.2	0.0
			② 会議等の精選及び短縮	2.6	0.4
11	学校運営	学校運営全般	① Crassroom等を活用した遠隔指導の充実	3.3	0.0
			② 学年・学級経営の充実	3	-0.1
			③ 各種委員会の充実	2.8	0.0

12	特色ある教育課程の推進	① シラバスに応じた適切な学習計画の推進	2.9	-0.1
		② コースの特性を生かした教育課程の推進	3	0.1
		③ 多様な進路に対応した学習計画の推進	3	0.1
13	基礎・基本の定着	① 生徒の学力の把握と評価基準の設定	3	0.0
		② ICTを活用した授業改善の推進	3	-0.2
14	個に応じた学習指導の徹底	① 評価方法の創意・工夫	2.9	-0.1
		② 習熟度及び選択科目の設定による指導形態の工夫	2.9	-0.2
15	総合的な探究の時間	① 生徒の自主的な活動につながる学習の工夫	2.9	0.1
		② 教職員の協働体制の確立	2.8	0.0
16	特別活動	① 自主的・実践的な活動の活性化	2.9	0.1
		② 学校行事の内容の充実及び精選と変更	2.9	0.1
17	特別支援教育・保健教育	① 特別支援教育の推進	3.1	0.2
		② 課題を抱える生徒への指導体制の充実	3	0.1
		③ 保健教育の指導体制の充実	3	0.2
		④ 教育相談の充実	3.3	0.2
18	防災・安全教育	① 命を大切にする教育の推進	2.9	0.0
		② 防災安全教育の指導体制の充実	2.9	0.1
19	人権教育	① 人権教育指導体制の確立	2.8	0.0
		② 確かな人権意識の育成	2.8	-0.1
20	環境教育	① 環境教育の指導体制の充実	2.7	0.0
		② 学校美化の向上	2.8	-0.1
21	学校図書教育	① 図書室の利用向上	2.8	0.6
		② 読書意識の向上	2.3	0.2
22	学校の個性化・特色化	① 研究指定事業（高大接続改革推進事業、インスパイア・ハイスクール、ふるさと貢献・活性化事業 等）の推進	3.1	0.1
		② 外部講師の活用	3	0.0

学校関係者評価

- ・学校行事や授業のあり方はコロナの間に変わってきている。コロナが収束しても元に戻るというよりも新しいことを目指してほしい。
- ・ビルドアンドビルドにならないよう、3年間のコロナで見えてきたことを見直すことも考えてほしい。
- ・明るい雰囲気を発信してイメージアップを図ってほしい。企業との連携もPRにつながる。そのためにもICTの活用をさらに推進してほしい。
- ・コロナの3年間、困難な時代であったが、やり遂げたという思いも生徒の中にはある。
- ・新学科「STEAM探究科」に明るい展望が見える。
- ・生徒同士の挨拶が少なく感じる。大人から挨拶すれば返してくれるが生徒は受け身になっている。
- ・手話講座など福祉人材の育成を今後も継続して行ってほしい。
- ・Facebookの発信をぜひ続けてほしい。
- ・TVを見ない、本を読まない子どもが増えている。偏った情報だけに触れることの危険を感じる。本を読んだり人と触れあうことで心が通い合う経験をしてほしい。
- ・評価をパソコン入力で行うと厳しい評価になる面があるので、活用方法の工夫も考える必要がある。